

1. 評価報告概要表

作成日平成 21年 3月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	4072300553
法人名	医療法人 城戸医院
事業所名	医療法人城戸医院 グループホームけやき
所在地 (電話番号)	福岡県八女市室岡字中道 1099- 2 (電話) 0943- 24- 6161

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2- 2- 51		
訪問調査日	平成21年3月4日	評価確定日	平成21年3月18日

【情報提供票より】(21年2月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 5月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	21 人
利用定員数計	18 人
常勤	17人, 非常勤 4人, 常勤換算 8.5人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 / 改築
建物構造	木造 造り	2 階建て <input checked="" type="radio"/> 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 <input type="radio"/> (円)	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有 (100,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (2月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	13 名
要介護 1	2 名	要介護 2	6 名	
要介護 3	5 名	要介護 4	3 名	
要介護 5	2 名	要支援 2	0 名	
年齢	平均 85.5 歳	最低	69 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八女公立総合病院、筑後市立病院、大石歯科医院
---------	------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

暖かく明るい光が差し込み、木のぬくもりを感じる事が出来る建物に足を一步踏み入れると、利用者の歌声や笑い声に合わせ、職員、利用者の笑顔が溢れている。ホームの外でも、市で行っているいきいきサロンへの職員の派遣や、グループホーム連絡協議会の世話役を始め、ドッグセラピーチームを立ち上げ、その事務局として活動する等、市や地域との連携も密に取りながら、ホームと共に地域の活性化に向けた取り組みも行っている。第2の我が家「生きがいのあるホーム」開かれたホーム「家族とひとつになれるホーム」という4つの理念を掲げ、在宅復帰を目標とした支援を行うと同時に、ホームとしてのマニフェストを掲げ、その達成に向けて全職員が一丸となって、利用者の日々の暮らしを支えているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目 :外部4)</p> <p>前回の評価では、サービス担当者会議に利用者が参加していないこと、介護計画の同意の署名捺印が漏れているものがあるという部分が改善点として挙がっていたが、改善計画シートを活用し、計画作成担当者を始め、職員全員で話し合いを行いながら改善に向けて取り組みを行った。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目 :外部4)</p> <p>ユニットリーダーが中心となり職員に意見を聞きながら、各ユニット毎に自己評価票を作成した。作成したものは、再度職員にフィードバックして、評価の意義について共有を図っている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目 :外部4, 5, 6)</p> <p>町内会長や民生委員、市の職員、地域包括支援センターの職員、利用者、利用者家族の代表等が出席して、2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの取り組みや行事等を報告したり、逆に地域の情報を教えてもらったり、双方の情報交換の場となっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映 (関連項目 :外部8, 9)</p> <p>運営推進会議に参加できる家族には、積極的に参加してもらっており率直な意見を出してもらっている。また、運営推進会議の後には家族会も開催している。そこで出た意見については、法人や職員間で話し合い、改善に向けて取り組むようになっている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目 :外部3)</p> <p>地域で行われている行事や清掃活動等、利用者と職員と一緒に参加するようしており、地域の人たちとの交流を図っている。またホームで開催する祭り等の行事にも、地域の方々の多数の参加がある。</p>

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくあげている	第2の我が家「生きがいのあるホーム」開かれたホーム」家族とひとつになれるホーム」という4つの理念を掲げている。また年に1度、ホームの状況に応じて、理念の見直しも行うようになっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、職員それぞれの名札の裏に入れておりいつでも見れるようにしていたり、朝礼時やミーティングの時に唱和を行ったりしながら、日々実践に向けて取り組んでいる。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われている行事や清掃活動等、利用者と職員と一緒に参加するようにしており、地域の人たちとの交流を図っている。また、ホームで開催する祭り等の行事にも、地域の方々の多数の参加もある。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニットリーダーが中心となり、職員に意見を聞きながら、各ユニット毎に自己評価票を作成した。作成したものは、再度職員にフィードバックして、評価の意義について共有を図った。また、昨年の外部評価における改善点についても、改善計画シートを利用し、改善に向けて取り組みを行った。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長や民生委員、市の職員、地域包括支援センターの職員、利用者、利用者家族の代表等が出席して、2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの取り組みや行事等を報告したり、逆に地域の情報を教えてもらう等、双方の情報交換の場となっている。		

グループホーム けやき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	八女地区のグループホーム連絡協議会の代表として活動しており、市との連携は密に取れている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内で定期的に勉強会を開催しており、制度についての理解を深めている。また、利用者や家族に対しても、入居時に制度についての話しをするようにしており、必要な時に活用してもらえるように支援している。		
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の様子がわかるものとして、行事等の写真を使って、毎月1回「けやき新聞」を作成しており、家族へ報告している。また何かあれば、その都度電話や面会時に話をするようにしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加出来る家族には、積極的に参加してもらっており、率直な意見を出してもらっている。また、運営推進会議の後には家族会も開催している。そこで出た意見については、法人や職員間で話し合い、改善に向けて取り組むようにしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の希望やスキルアップに向けての異動をすることがある。しかし、もし異動や退職がある場合にも、入居者や家族に事前に説明して理解を得ている。利用者へのダメージが最小限に抑えられるように、引継ぎも時間をかけておこなうようにしている。		

グループホーム けやき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、その人本人がこの仕事が好きであるかという部分やグループホームに向いているかどうかというところを重視しており、年齢や性別、資格等で採用から排除することはない。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>入職時や月1回の会議等の中で、人権教育について学ぶ機会を持っている。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事前に年間計画を立てた上で、ホーム内でユニット毎の研修、法人全体の研修等、定期的に行っている。また、外部研修にも積極的に参加を促しており、参加出来なかった職員に対して、内容についても報告会にて伝達するようしている。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>八女地区のグループホーム協議会に参加しており、それぞれのホームを相互の職員で見学しあったり、野球クラブを作って活動したりしながら、積極的に同業者同士の交流を図っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学や体験入所を利用してもらったり、ホーム側から事前に面会に行く等、また、併設のデイサービスに数回来てもらったりしながら徐々に場に馴染んでもらえるような配慮や工夫を行っている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は人生の先輩であり、教えてもらうことはたくさんある。また相談しあったり、昔の話を聞かせてもらったりしながら、お互い支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に、利用者と家族の意向を聞くようにしている。また入居後は、普段の会話から、その人の思いや意向を引き出すよう心がけている。意向の把握が困難な利用者については、家族にも話を聞きながら、本人の意向の把握に努めている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプラン作成前には、サービス担当者会議を開催して、本人や家族の意見を始め、職員の意見を出し合い、ケアプラン作成を行っている。また作成後には家族に見せて説明を行い署名・捺印をもらうようにしている。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、モニタリングを行った上で見直しを行い、新たな計画を作成している。状態に変化が見られた場合には、その都度見直しを行うようにしている。</p>		

グループホーム けやき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ボランティア団体の事務局として活動していたり、民生委員に対して認知症についての講義を行う等、地域に対する支援をはじめ、ホーム内では、家族等が宿泊出来るスペースを設けていたり、今後は認知症サポーター養成研修の開催も計画しているところである。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状況に応じて、元々のかかりつけ医への受診をしている利用者もいれば、母体の医院の受診を希望している利用者もいる。いずれも利用者や家族の意見を尊重した上で支援を行っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りについての指針を作成しており、入居時に説明を行っている。今のところ、ホームで看取りを行ったケースはない状況である。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する職員の言葉かけや対応は、ゆっくりと穏やかに行われており、プライバシーを損ねるような場面は見受けられない。また記録類についても事務所内の鍵がかかる棚で管理している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれが望んでいることを把握し、なるべく個別に対応するように努めている。また、それぞれのペースに合わせながら、決して無理強いをしないようにしている。		

グループホーム けやき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれが出来る範囲で台拭きや配膳等、関わりを持ってもらうようにしている。利用者と職員が同じテーブルで同じ食事を摂りながら、ゆったりとした食事の時間を楽しんでいた。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯を決めてはならず、利用者の希望に合わせて援助を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常的な掃除、洗濯、調理等、無理強いすることなく、自分の家にいるような感覚で、自然にそれぞれの役割をもってもらえるように支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれの希望を聞きながら、散歩や買物等に出掛けしている。また時にはドライブにも出掛けることもあり積極的に戸外に出る機会を持っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけることはなく、自由に出入りできるようにしている。利用者の状態に合わせて、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月職員会議の中で、通報訓練や避難経路についての確認を行うようにしている。また年に1回、消防署から来てもらって、夜間を想定した訓練を行っている。訓練時には地域にも訓練のお知らせを配布しており参加を促している。		

グループホーム けやき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成しているため、栄養のバランスは取れている。また、食事や水分の摂取量もチェック表に記載するようしており、それぞれの状態に応じて支援している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルやイス、装飾品も一般の家庭にあるようなもので揃えられており、心地よく過ごせる空間作りがなされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、好みのものや使い慣れた家具、人によってはテレビ等も持ち込まれており、自宅にいる感覚で居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。		